自由南アフリカの声
Voice of Free South Africa

2016 年 2 月

No. 67

～1冊の本が人生を変える～

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)

２０１６年２月の報告

■ ８月～２月　南アにて図書・学校菜園・サッカー支援活動など。
各地で図書研修会、移動図書館巡回、有機農業研修会実施
国内にて、英語の本などを収集、分類・再梱包作業

■ ８月　TAAA より南アを訪問

■ ９月　南アにて有機農業促進イベント

■ 10 月　３７１箱（英語の本、算数セット、サッカーボール）が南アに到着

■ 11 月　TAAA 南ア代表一時帰国

目次

・南アの地方を変える農業と図書の力（平林薫）・・・・・・・・・・・・・２
・現地スタッフ４人からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
・生徒会長の呼びかけで算数セットと寄付金を南ア支援に！・・・・・・９
・本収集おじさんの独り言（浅見克則）・・・・・・・・・・・・・・・・９
・梱包作業に先立つ種分け作業のこと（大友深雪）・・・・・・・・・・１０
・JICA 草の根事業報告（久我祐子）　・・・・・・・・・・・・・・・・１１
・活動日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
・寄付金や本などを下さった方々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

トゥルベケ小学校の畑でほうれん草の収穫

～南アの地方を変える農業と図書の力～

生徒たちの自主性がぐんぐん伸びている！

TAAA 南ア事務所代表

平林 薫

JICA 有機菜園活動

生徒たちの力で大成功

～３９校参加の農業促進イベント～

写真：有機農業促進イベント

2015 年後半の活動のハイライトは何といっても９月９日に開催された“有機農業促進イベント”だ。対象校 40 校中、学校の行事の都合で欠席となった高校 1 校を除き、39 校が参加して盛大なイベントとなった。JICA 事業は 1 月 31 日をもって 2 年半の活動が無事完了したが、事業の終了前にこれまで教師や生徒が事業で学んだことや活動進捗の発表の場としてイベントを開催することになった。対象校では担当教師を中心に菜園委員会メンバー生徒たちが発表の準備をして当日に臨んだ。対象者は小学校低学年から高校生まで年齢が幅広いが、それぞれが有機農業とは何か、プロジェクトで何を学んだか、何故有機農業が良いのか、などを詩や劇にして発表した。

会場はエシバニニ・ホールというウムズンベ自治体が管轄する大きなホールで、セッティングは当初ケータリングのプロに任せようかとも考えたが、ホールに隣接しているエシバニニ小の校長の協力やスタッフの力で、飾り付けなどもすべて自分たちの手で行った。また、各対象校の教師たちは畑でとれたフレッシュな野菜をテーブルに飾ったり、収穫物や伝統野菜を使った料理を持ち寄ったりして、出席者全員で作り上げた楽しいイベントになった。

写真：手押し車とポリタンクを受賞

当日はゲストとして州教育省学区担当マネージャーのザミサさん、州農業省地域担当官のギダさん、ウムズンベ自治体のムシャングさんを招いて、それぞれが出席者へのメッセージを送った。また、ムタルメ卒業生グループのリーダー、ンギディさんが４グループを代表して有機農業への熱い思いを語り、会場は大いに沸いた。そして、事業参加

者へもスタッフへもみんなにこれほどまで有機農業への関心を与えてくれた立役者、リチャード・ヘイグ氏からも励ましのメッセージをもらった。そしてゲストスピーカーはトゥルベケ小のドラドラ校長。そう、まさにこの“畑パッション”の 3 人は、事業の中で大変重要な存在であり、プロジェクトマネージャーとしては感謝の気持ちでいっぱいだ。
事業のカウンターパート団体である URDO メンバーも、クマロ校長はイベントの開始時と終了時のお祈り、ムタルメ小のクマロ先生は裏方で進行係、シンガ先生は司会と大活躍だった。イベントは出席者、関係者全員の協力で成功を修め、翌年からは校内で保護者を招いて同様のイベントを行いたい、と話す教師もいた。

学校を拠点に地域に根付き広がる有機菜園

学校のクリスマス休暇中、スタッフは生徒の家庭菜園を訪問してサポート、アドバイスを行った。年度が変わって進学する小中学生から、“高校に行っても必ず菜園活動を続ける”という声が聞かれたという。事業で菜園活動に携わった生徒の中から、将来地域で就農する姿が見られることを願っている。年明け 1 月に学校の新学年が始まった時点で、事業としての最後の学校訪問を行い、菜園委員会の引き継ぎを確認して次のシーズンの種を配布した。農業指導員は、対象校生徒の活動への自主性・積極性・畑仕事への熱意、菜園委員会システムの機能とメンバーの協力体制、担当教師のリーダーシップ力、収穫物の質と量、モニタリングテストの結果などを踏まえて、1 位から 40 位までランキングを出した。そのトップ 10 校には賞状と、賞品として手押し車と 25 リットル水タンクを贈呈した。
卒業生 4 グループの中でロゼッテンヴィル・グループは学校の敷地を出てメンバーがそれぞれ家庭菜園を行っていたが、リーダーが地域の土地を管理するチーフから許可をもらい、メンバー7 名で共同菜園を開始することができた。同グループは紆余曲折あったものの、事業終了までに活動の方向性が決まったことにほっとしている。菜園は谷間で、すぐ横に年中枯れない泉があることから、冬場でも灌漑用水の心配をせずに活動を続けられるという利点がある。他の 3 グループと共に、同グループのこれからの活躍も楽しみだ。

私自身、菜園事業に携わるまで畑作りどころか、窓辺のハーブ栽培すら経験がなかった。プロジェクトマネージャーとして事業の管理をする立場とは言え、やはり自分でやってみなくては生徒に“畑作りをしましょう”とは言えないな、と思いながらも、ダーバンでは高層ビル暮らしを言い訳にしていた。前出のリチャード・ヘイグ氏の研修会や農場訪問をしてだんだん“自分でもやってみたい”という気持ちになってきた頃ヒバディーンに移った。住宅地ではあるが土があるので、自分で食べたパパイヤやアボカドの種を撒いてみたところどんどん成長し、今では実も付けている。何だか楽しくなってきて、ハーブやトマトにも挑戦した。そして、昨年の春には有機イチゴも収穫でき、ますますモチベーションが高まってきている。

親しまれ信頼される TAAA スタッフたち

JICA 菜園事業は対象校に良い変化をもたらし、地域で少しずつ有機農業が認識され、畑作りが広がるきっかけとなったと言える。これは若い男性スタッフのシャリとボングムーサが対象校の校長や教師、地域住民へのリスペクトを忘れず、誠実に活動を進めたことで対象者からの信頼を得られたことが大きな要因である。また、若い男性が農業に携わっている姿を見ることは特に男子生徒にとって良い刺激になり、コミュニケーションもとりやすいことが生徒の活動への参加を促進することにもつながった。

充実する図書活動

日本から 371 箱の本が届く

2015 年度に日本から送っていただいた 371 箱は、10 月 24 日に無事 TAAA オフィスに搬入された。当日はスタッフ４名とアルバイト２名の若い男性６名でてきぱきと作業が進められた。これから箱を開けて各対象校への配布が楽しみだ。

写真：　図書室の蔵書を整理するイナラ小の生徒たち

スタッフのカムレラとモンドリ、対象校の司書教師の努力により、12 月の学年末までに対象校全校において図書室が整備された。まだ数校で図書委員会のシステムの確立や本の整理などの作業が残っていたため、１月の新学年開始後に取り掛かった。引き続き移動図書館車で対象校を巡回訪問して本の貸出しを行っているが、バス自体が古くなってきていること、炎天下で悪路を走ることなどからコンディションが悪化してきており、頻繁に整備に出しながら活動をしている。

10 月末には山間部のシャバ小で保護者も招いて図書室の開所式が行われた。シャバ小は校長のリーダーシップの下、菜園活動も活発に行われている優秀校で、TAAA のサポートで図書室が開設できたことを大変喜んでいる。生徒の本への興味も大きく、移動図書館車の巡回時には我先にバスに走り寄ってくる姿が見られる。また、やはり山間部のカティ高校は、しばらく学校の管理状態に問題があったため活動が進まなかったが、ようやくスペースも決まり、本棚の設置と蔵書の整理が完了した。これまで全く図書活動が行われていなかった学校のため、まず図書委員会の設立とメンバーの選定を行い、図書室内で司書教師とメンバー生徒への研修を行う準備をしている。

写真：イナラ小学校の図書室にて、左は筆者、平林薫

また、今年度から図書活動の対象校となったイナラ小の図書室に本棚の設置が完了し、スタッフと司書教師、図書委員会メンバー生徒が蔵書の整理をして本棚に収めた。司書教師は“図書室に寝泊まりしたい”くらい本が好きで、能力も高く、生徒もすでに活発に活動を行っている。到着した箱の中からできるだけ多くの本を届けたいと思っている。

図書室に有機農業の本も

コンテナ図書室を寄贈してから図書活動が定着し、生徒がよく本を利用しているシボングジェケ高は菜園活動にも活発に参加しており、生徒から“農業について広く学びたいので、有機農業や自然環境に関する本が欲しい”というリクエストがあったと司書教師から聞いた。早速有機農業の本を現地で購入し、また日本から送られてきた本の中から野菜やエコロジーの本などを選んで届けた。このようなリクエストから菜園活動と図書活動の相乗効果が出てきたと感じている。

以前にも会報の記事の中で触れたことがあるが、地域の学校では設備や教材不足の問題と共に言語の混乱という課題を抱えている。南アフリカには 11 の公用語があり、活動地域の人々の母語はズールー語であるが、多様な言語の中で“共通語”の役割は英語が担っている。南ア社会で特に経済活動に携わる場合、英語でのコミュニケーションは必須である。学校では小学 1 年生から英語教育が始まるが、まず母語のズールー語の学習が先決であり、すべての授業はズールー語で行われる。そして 4 年生になるといきなりすべての授業が英語になるため、ここで混乱が起き、生徒が十分に授業内容を理解できないという事態に陥る。特に理数課目では、“問題の意味がわからない”ことは致命的である。

算数セット大好評！

理数課目の指導に関しては、実験室がない等の設備の問題と教材不足に悩まされている。頭の中で想像するだけではなかなか理解につながらないものだ。そこで算数セットの寄贈は大変喜ばれる。生徒がおもちゃで遊ぶような感覚で楽しみながら数や計算を学べると大好評だ。ムタルメ小学校には大型の算数セットを寄贈したのだが、6-7 年生を指導するクマロ先生が生徒に“3 x 3 は”と質問すると“？？？”という生徒もいて愕然とするという。つまり 6 年生の算数をやり直させるために算数セットが使われるのだ。やはり算数は早いうちから親しみ、理解することが大切なのだと感じる。そして上記のように生徒たちは母語を学びながら、授業内容や問題を理解できるよう、そして将来社会に出るために必要な英語力もつけなければならない。TAAA の図書活動は、生徒が楽しく本を読めるようになることと同時に、教育課程への支援にもつながっていると言える。

最後に、山間部のカティ高校の校長から有機菜園活動に対して以下のようなメッセージがあったのでお伝えしたい。This has served as a rebirth to our school.　(事業は私たちの学校を蘇らせてくれた)

写真：日本の TAAA から送られてきた本のコンテナが届き、TAAA 南ア事務所の倉庫に運び込むスタッフたち

現地スタッフからのメッセージ

Tlali Mokoteli　シャリ・モコテリ

（農業プロジェクト推進担当）

写真；左からボングムーサ、ンギディ、シャリ

まず始めにＴＡＡＡの皆さんに２年半の期間私を活動に参加させていただいたことに感謝したいと思います。

私は学校を拠点とするＪＩＣＡの有機農業プロジェクト遂行のために働いてきました。この活動を通して私の人生を変えるようなことをたくさん学びました。特に、健康な食事をすることと小さな土地でも正しい目的のために使用することが大切だということです。エナレニ 農場のような小さな土地でもまともな商売ができるのですから。こういった学びを家族、友だち、そしてその他の地域住民にも伝えていくつもりです。私は常に学校の生徒や地域の大人たちと一緒に意欲的に活動してきたつもりです。その活動で共有した経験が彼らの考えや生活スタイルを変えてくれることを願っています。何より私の自尊心を醸成してくれたこのような仕事の機会に恵まれたことに感謝しています。

もっと広い意味でも学んだと思えることがあります。それは、人と一緒に働く場合には、出会った瞬間からその人たちを尊敬しなければいけないしそうすれば相手からも同じように尊敬を得られるのだということです。もう一つは、人間としてさらに重要なことなのかもしれませんが、人と一緒に働くときは時間を厳守しなければいけないということです。

私は平林さんのマネージメントの下で働けたことをとても良かったと思っています。というのは彼女が誠実で、信頼できて、人道的な精神の持ち主だからです。

プロジェクトに対する私の評価を問われれば「最後まで首尾良く運営されてきたし、地域の人々の生活を確かに変えたという意味で、このプロジェクトに参加できて有意義でした」と言いたいです。

最後に、私たちが交わした契約の終了時まで、その合意内容に沿っていい仕事をしてきたと申し上げます。

Bongumusa Gumede　ボングムーサ・グメデ　（農業プロジェクト推進担当）

私はTAAA で２年半、４０の学校と４つの地域社会人グループと活動を共にしてきました。プロジェクトを始めたばかりの頃は、趣旨を良く理解してもらえない学校もあって、たいへんな思いもしました。学校の生徒たちに働きかけても、「いそがしいからできない」とさえ言われたこともありました。軌道にのせるまで、待つか諦めるしかなかったのですが、時が経つにつれて、このプロジェクトが自分たちのためのもので、自分たちが動くしかないのだということが分かってもらえるようになりました。そうなってからは事業はスムーズに進み出し、手を取り合って作業できるようになりました。

このプロジェクトは、いくつもの研修会やエナレニ農場で多くを学べたという意味で、私にとっても有意義なものでした。ＴＡＡＡと知り合ったおかげで、このプロジェクトを通して私が身につけた新しい諸技術を持って地域社会のアドヴァイザーになることが可能になったわけです。

ＴＡＡＡは学習者たちに学校で有機農業を教える恰好なシステムを駆使しています。彼・彼女らは、どんな食物が自分たちの生活にとって健康的かを学びながら育っています。もし農業を勉強していれば、就業先がなくても、野菜を栽培して販売して稼ぐ大きな機会を持てるということを学んだのです。

ＴＡＡＡは、私たちの地域社会や学校で重要な役割を果たしました。なぜなら困窮している人たちが今や食料を手にすることができるようになったのですから。プロジェクト主催の研修で身につけた農業技術を活かして自分の生業を農業にすると決心した生徒も数多くいます。このプロジェクトに参加する機会に恵まれなかった学校がこういったことを聞き知って自分たちの学校はどうしてプロジェクト校に選ばれなかったのだろうとがっかりしています。

４つの社会人グループの場合は、何人かのメンバーが途中で降りてしまいましたが、最後にはみな得をしたと思えるような成功を収めることができたと思います。最初の頃は自分たちの持っている農業情報を、例えば化学肥料を使いたがったのですが、それを使うことがどんなに有害かを彼らに理解してもらおうと必死になりました。グループを抜けた人たちの何人かは、自分たちの家で家庭菜園を始めたり、化学肥料が有害でしかも割高であることに気づき、私たちのプロジェクトに戻ってきたいと意思表示したりしています。

私も含めて全スタッフは、TAAA チームと良好な関係で活動してきました。就労体験と同時に広い意味での人生経験を積む機会を提供していただいたことに感謝の気持ちを表明したいと思います。

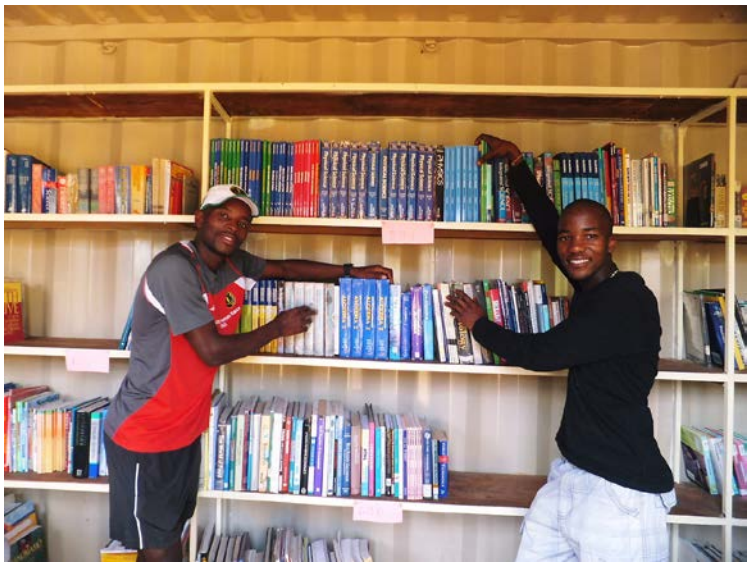
私はこのように南アの人びとに有益なプロジェクトが南ア中に広がればいいのにと願わずにはいられません。

Nqamulela Gumede　カムレラ・グメデ

（図書プロジェクトスタッフ）

私は TAAA の図書プロジェクトで４２校と連携をとりながら３年間働いてきました。

私たちがプロジェクトを始めた当初は、それぞれの学校の異なる事情で、様々な困難を抱えました。しかし、TAAA チームの支援で何とか諦めずに、各学校を毎週、時には毎日、訪問し続けてきました。図書室を持たず図書館の何たるかを理解できない学校にプロジェクトを持ちかけるのは簡単なことではありませんでした。



写真：カムレラ（左）とモンドリ（右）

TAAA プロジェクトはそういった学校を変えたのです。現在学校図書室はたいへんうまく機能しています。図書室のおかげで、これらの４２校はプロジェクトの対象になっていない学校に比べ、充実していると言えます。当初は本気でなかった学校も今では私たちスタッフと一緒に図書室運営ができてとても幸せそうです。

例えば、対象校の一つであるベキズィズウェ小学校は何年も図書室支援を希望していたのに、実現されずにきていました。そこで TAAA はプレトリアの日本大使館からの支援に応募してくれた結果、図書棚付き図書室を含む３つの教室の建築が可能となりました。学校と地域社会にとって夢のようなことでした。２学年で１教室を共同使用していたこの学校のすべての学年が図書室に加えて自分たちの教室も持てるようになったのです。それは生徒たちの生活を一変させました。

プロジェクトは図書室を作るスペースがない学校には、コンテナ図書室を設置しました。幾つかの学校はコンテナ図書室でうまくいっているのです。例えば、カンヤ高校では、それまで図書室を持っていなかったため、生徒たちには図書館の貴重さが分からなかったのですが、棚に本の詰まったコンテナ図書室を受け取ってからは、日本発のこのプロジェクトに関わることに誇りを持ち、たいへん良く利用しています。その結果学習者たちの高校終了資格試験の合格率も上がってきているようです。

移動図書館車活動では、２人のスタッフが働いています。私たちは学習者に守るべきマナーとバスから本を持ち出す前にどのような手続きが必要なのかを教えています。こうして学習者は図書館の利用方法を学んでい

るわけです。私たちは定期的に学校を訪問し、司書教員の助けを得て、学習者たちに本を貸し出しています。貸出期間は２週間なので、２週間後に回収にいきます。その時希望すれば学習者たちは新しい本をまた借りることができます。

以前私は人前で話すのに怯えていましたが、今ではプロの教員なみの仕事をしています。司書教員たちは、プロジェクトが主催する図書研修から多く学んでおり、学校図書室の重要性を認識しています。

このプロジェクトは南アフリカで、特に農村部の学校において、成功しています。ＴＡＡＡは、公共図書館から遠く離れているこれらの地域の学校を多いに助けているのです。

Mondli Chiliza　モンドリ・チリザ

（図書プロジェクトスタッフ）

４２の学校を訪問するスタッフとして、ＴＡＡＡの皆さんと一緒に働くことは大いなる喜びです。

ルトゥリ高校に通っていたとき、私は図書委員会の委員をしており、図書室で多くの時間を過ごしていました。母校の図書室は今、新しい司書教員と新しい委員会メンバーでとてもうまく運営できています。私たちはコンテナ図書室にさらに書棚を増やすという校長先生の応援や図書教員だけでなく様々な教科担当の先生方による利用の広がりをとてもうれしく思っています。私たちは皆ＴＡＡＡからの本を大変有り難く受け取っています。

図書室や本のことをまじめに受け止めない学習者もいます。私たちはスタッフは彼・彼女らに図書室の利用方法を教えながら、できるだけ読書を勧めています。私はしばしば、彼らに「本を壊すことは、自分自身の未来を壊すようなものだ」と言っています。学習者に図書室とはどんなところかを理解してもらえるよう心がけています。私たちは若いスタッフなので、私たちの話しかけ方が、学習者たちの理解を助けているようではあります。

移動図書館車活動は図書館の利用方法を学べるという意味でも役に立っています。公共図書館のない農村部の学校では特に有益です。農村部の学校の学習者たちは図書館車の訪問を楽しみにしており、積極的に利用しています。

このプロジェクトでは十分なスペースのない学校に、コンテナ図書室を設置しています。学校だけでなく、地域住民もそのような支援をとてもありがたがっています。図書館車を走らせていると、このプロジェクトの対象になっていない学校の職員から、どうしたら参加できるのかと聞かれることがあります。それは対象校の様子を見聞きしているからです。

私たちスタッフは、対象校の図書室を定期的に訪問し、本の整理を手伝っています。その際には、図書教員と話し合いを持ち、学校図書室にとって極めて重要な図書委員会が機能しているかどうかを確認します。図書室で何か問題や課題があると判断した場合には、図書教員と図書委員会の子ども達との会議を設定します。そして学習者たちには、本が読めてよく理解できているかどうか確認できるように、書評を書くように勧めています。

どの学校もこのプロジェクトを歓迎し、私たちスタッフに協力的です。学習者の読書力、書評力、物語力が向上してきているのが見てとれます。どの学校もこのプロジェクトに参加していることを誇りに思い、教員も地域住民もＴＡＡＡの支援に心から感謝しています。

生徒会長の呼びかけで算数セットと寄付金を南ア支援に！

福岡県福津市立福間東中学校　前生徒会長　　松崎 昇

僕は､国際協力に興味があり､将来は世界の貧しい国の人々の助けになるような仕事がしたいと考えています。そのため、以前から生徒会長になったら国際協力につながる取り組みをしたいと思っていました。何かできないかと調べている時に、インターネットで TAAA のことを知ったことが今回の寄付につながりました。

集会や放送で、「是非この取り組みを成功させたい」という思いも含め、全校生徒に呼びかけると、皆快く協力してくれて、１週間で 18 個の算数セットが集まりました。算数セットが手元にない生徒も多く、埼玉への送料も必要だったため、募金活動も同時に行いました。埼玉までの送料は、2000 円程度だったのですが、全校生徒の温かい協力のおかげで、１週間で 15350 円集まりました。集まったこのお金と算数セットが少しでも南アフリカの子ども達の役に立って欲しいと思っています。

僕は、まだ中学生で、海外に行ったこともなく、貧しい国々の現状はわかりません。しかし、これから英語をしっかりと学び、青年海外協力隊に入ったり、スタディーツアーに参加したりして、そのような国を実際に体験したいです。そして、それから貧しい国の人々の役に立つ仕事をすることが、僕の将来の夢です。

その第一歩として、今回このような取り組みを行うことができ、とても良い経験になりました。どうも、ありがとうございました。これからも、お仕事頑張ってください。

本収集おじさんの独り言

浅見 克則

当会の活動の柱は何といっても本の寄贈である。本の収集活動がなければ寄贈もできない。当会の片翼を担う収集活動の後継者を育てなければならないと言う焦燥感に駆られてこの 20 年を過ごして来た。しかし残念ながら見つかりそうもない。いい加減な勤務実態で（出社してから本の収集に行ってまた夕方何食わぬ顔で会社に戻る）のらくらやっていける社会人なんていないのだ。極めつけは関西出張をわざわざ組んで図書館車の移送を出張旅費で賄うなんて会社人の風上にも置けない社会人はそうざらにいるわけではないのだ。後継者探しはもう諦めた。体の続く限りはトレーニングのつもりでこのままで行くことにした。

本の収集も苦しい事ばかりではない。頼もしい助っ人と帰り道の運転席で話が弾む。（トラックの運転席、会話がし易い）同世代の北爪さんとは共通の話題が尽きない。最初かたかったネオちゃん（津山ネオ）とも今は笑いが絶えない。

生まれたばかりのネオちゃんを南アで抱っこしたことがあるのだ。息子の世代の森君とは共通の話題タップリ。リンゴちゃん（榊裕子）からは将来の悩みを聞いたこともある。関わってくれた人たちの人生の断片を垣間見たようでこれはこれでなかなか楽しい。でも誰か替わってくれる人いないかな？　新人募集中！

左：筆者　右：北爪さん

梱包作業に先立つ種分け作業のこと

大友 深雪

写真：手前が筆者

２０１５年最後の第３日曜の梱包作業が予想外に捗って、２０１６年１月梱包分の種分け済みストックが払底してしまったという連絡をうけ、慌てて種分け作業日を暮れの１２月２８日に設定し、担当の久我さんと私とで４時間ほど種分け作業を行いました。

TAAA の図書支援活動は、日本で集めた英語の本をとにかく梱包して送るという初期の段階から、現地コーディネーターに平林さんを得て小・中・高の対象別に分けて梱包するという段階へと進み、その後さらに現地訪問および平林さんの一時帰国の際に梱包内容・方法の改善検討を重ねて、現在の種分け方法に辿り着いています。日本でのスムーズな梱包と、現地到着後の平林さんと現地スタッフのカムレラさんによる各学校へのスムーズな配布に資することを主目的としますが、現地で実際に会って話してきた子ども達や図書指導教員など現地の読者の皆さんを思い浮かべながらの作業だといえます。

原則月一回（梱包日に梱包と並行してあるいは別の日に）の種分け作業では、英語で書かれた本の内容と英語のレベルを確認の上、主に対象者別に以下のように分類しています。

１）Primary (Grade R～G6/G7)　　注：Primary=初等（就学前・小学校）

２）Secondary/High School（G7/G8～G12）　　Secondary=中等（中学・高校）

３）Tertiary/Academic(Technikons, colleges)　　Tertiary=高等（高専・職訓・大学）４）Teachers（応急手当手引き、性教育手引き、教育論、子ども心理、障害者教育など）

５）Adults(parents/adults in general)　（子育て論、料理、「娯楽」小説など）

６）Special classification regardless of their readers' age level　（トピック別特別分類）

(1) Dictionaries(辞書の需要大) (2) Religion（聖書の需要大）(3)Math（数学ワークブック）

(4) Japan（日本への興味予想以上）(5) Computa（ＩＴ教育支援を始めたので）

トピック別の(6)として Agriculture(農業)の追加希望も出ているのですが、この分野の本の寄付が殆どありません。集める名案をお持ちの方がいらっしゃれば、お知らせ頂けないでしょうか。

需要が高いのに寄付が少ない幼児・小学生用の絵本は特に大歓迎です。その一方で、英字新聞や英語以外の言語で書かれた本を届けてくださる方がいらっしゃいますが、現地での需要がないため送れないことをご理解・ご了承ください。

洒落た飛び出し絵本や就学前の子どもに喜ばれそうな数の導入本などが出てくると、「この本はあの小学校あたりかな」と訪問した学校の書棚、図書委員会メンバー、図書担当教員の方などが懐かしく思い出されます。小学校と中学・高校のどちらに分類すべきか迷い始めることもしばしばですが、「私は小説をドンドン借りているけど、難しすぎて一冊も借りてない子もいる」という高校の図書委員の話を思い出し、「どちらでもいいか」としています。これらを現地でさらに学校別に分配する平林さんが「これは～高校の～先生が喜んでくれるはず」と興奮していた姿なども思い出しながら、作業を楽しんでいます。

送るべきかどうか迷う本が出てきて、係二人で「どうします？」と顔を見合わせる事もありますが、そこはタブー厳禁・雑/乱読奨励という原則に立ち戻るようにしています。秦の始皇帝時代の焚書坑儒からつい最近の香港の書店主の失踪、国内的には１９８０年代の「おこりじぞう」の学校図書館からの撤去要請や２０１５年の「はだしのげん」の市民図書館での閉架要請などが脳裏をよぎり、情報隠しへの加担はしたくない、食糧と情報の格差の縮小を応援するという TAAA の菜園活動と図書活動の趣旨にそった種分け作業をさらに充実させて行きたいと、決意を新たにしているところです。

JICA 草の根事業の成果

学校菜園で未来の農民が育つ

TAAA 代表　**久我 祐子**

2016 年 1 月末で、2013 年 8 月に始まった JICA 草の根技術協力事業「学校を拠点とした有機農業促進のモデル地域作り」は無事に終了いたしました。

対象校４０校に学校菜園と菜園委員会を作り、総計 2,060 人の生徒が菜園活動に参加し、そのうち 448 人の生徒が家庭菜園を始めました。また、 212 人の保護者が学校菜園に参加し有機農業を学びました。微力ながらも、食糧自給率が極めて低い対象地域で、牛糞など身近にあるものを使うことで、低コストで環境に合った有機農業を普及することができたことを、私たちはとても嬉しく思っています。南アの地方には、大資本経営の農園はあっても、農村はありません。大農園に雇われている人達は、農地労働者ではありますが、自分たちや近所の人達が食べる作物を育てる農民ではありません。対象地域のあるクワズールーナタール州ウグ郡は、広大なさとうきび畑が広がる大農業地帯ですが、農村がなく「給食が一日の唯一の食事」という生徒を多くかかえている地域です。　私たちは事業の目的として、畑の出来ばえや収穫率よりも「人育て」に重点をおき、なるべく生徒たちの主体性に任せて、試行錯誤もたくさんさせて、考える未来の農民を育てようとしました。その結果、菜園活動が大好きな生徒、自発的に家庭菜園を始めたり、他の生徒に菜園技術を教えていく生徒、そして「将来は農民になりたい」という高校生も出てきました。

JICA 事業は終了しましたが、これからも学校菜園や家庭菜園で育ってきた将来の農民たちを暖かく見守り応援していきたいと思っています。今後とも TAAA の菜園活動へのご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

主な活動（2015 年 7 月 16 日～2016 年 1 月 15 日）

〈日本国内〉

５月～7 月 報告会の準備・広報　丸岡晶
7/19 梱包作業 高野千恵美 野田千香子 大友深雪 久我祐子 丸岡　平林薫（一時帰国中）
7/21 外務省 NGO 連携課へ　平林 久我 野田
８月　会報のラベル更新・印刷　　西村裕子
７月末～9月　会報編集、校正、郵送　野田　西村　高野
8/9 作業　浅見克則 野田 高野 鯨井幸一
8/3～10 南アの現地視察　　久我
9/20　作業　浅見　野田 鯨井 西村　高野　横山晃裕
9/26　本の出荷 371 箱　種分け作業 大友 野田　久我
9/28　11/12　JICA 会議　　久我　野田
9/30　12/13　12/28 本の種分け作業　大友　久我
9/16 クリスチャンアカデミー本引き取り　浅見　津山ネオ
10/3 アメリカンスクール本引き取り　　浅見
10/14 セントメリー本引き取り　　浅見
10/18 作業　野田 丸岡 鯨井 浅見 西村 高野
11/1 ひろしま祈りの石　申請書提出　　久我
11/23　東京農業大学　稲泉教授訪問　　久我　平林
11/24　11/30 JICA 事業提案書提出など　久我
11/26 ミーティング　　久我　　平林
12/2 商船三井スタッフと懇談　　久我　平林　野田
12/11 外務省 NGO 連携課会議　　久我　平林
12/12 本の箱を作業場に搬入　　北爪健一
12/20　作業・忘年会 平林 久我 鯨井 浅見 西村 小林 森直之 丸岡 高野 野田
1/14 リンダ・ハウスマンさんより本引き取り　浅見

〈南アフリカ共和国〉平林薫

7/24　日本への一時帰国より戻る
7/27～　州の各省、スタッフとの会議、学校訪問、スピーチコンテスト出席他
8/3～7 久我代表と各省等と会議　高校　エナレニ農場訪問
8/24～9 月　学校巡回訪問指導　省その他との会議
9/9 エシバニニホールにて有機農業促進イベント開催
9/9～10 学校訪問　リコーよりのコピー機贈呈
9/14～１８ 学校巡回訪問指導、省や URDO と会議
9/25　JICA 南ア事務所より水野さん見える　会議
9/30～10/2 学校巡回訪問指導、事務処理
10/5～9 春休み中の学校菜園訪問、家庭菜園訪問　南アスタッフと会議
10/12～14 JICA 東京の服部さんと菜園訪問　スタッフと会議
10/15～23 学校巡回訪問指導　本の寄贈
10/24 コンテナで 371 箱到着、スタッフたち４人と搬入
10/26～30 学校巡回訪問指導　小学校２校とエナレニ農場研修訪問
11/2～6 学校巡回訪問指導　会議　移動図書館車修理
11/9～19 学校巡回訪問指導　農業専門学校講師と会議　事業申請書作成
11/20　日本へ一時帰国
1/6 一時帰国より南アへ戻る
1/7 スタッフ会議　URDO メンバーと会議
1/11～15 ロゼテンヴィレグループ畑のフェンス設置　省関係者と会議　URDO メンバー会議　報告書作成